

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390100257		
法人名	(株)桜梅桃里		
事業所名	グループホーム和楽の家 上道		
所在地	岡山県岡山市東区才崎260		
自己評価作成日	令和 5 年 3 月 18 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①その方に合った役割やレクを実施出来る様な声かけをし、していただく事で、やりがいや自信を持って日々生活して頂く。また、その方に合った自立支援を大切にしている。
②ご家族に報告連絡相談をまめに行い、施設に足を運んでいただける声かけを行っている。ご本人の生活史やご本人・ご家族の要望・思いをお聞きし、情報を職員全員で共有し日々の個別ケアにあたっている。写真も交えた回想法を大切にしている。
③その方の生活のリズムを把握し、排泄リズムを知り、時間毎に声かけし、トイレ誘導する。みそ汁を毎食食べて頂いたり、水分を多くとっていただいたり、朝一番に冷たい飲み物を飲んで頂いたり、腹部マッサージをトイレに座っていただいたときにこちらでさせていただいたりと内科主治医・看護師の指示の元排便リズムをつくるようにしている。即効性はないが、日々気を付け習慣づけている。
④ドライブ、日光浴、散歩など社会支援を出来るだけ行う。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3390100257-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 5 年 3 月 25 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者には、我が家と同じように過ごして頂きたいとの思いから、起床や朝食は自由に自分のタイミングに合わせている。この施設に来てよかったと思って頂けるように日々のケアに臨んでいる。両ユニットの管理者は「介護施設は業務優先じゃなく、一人ひとりと笑顔接することを大切にする場所だ」と考えていて、職員には「その人らしさ」、利用者には「歩み寄り」姿勢を心掛けている。とくに、第1ユニットの管理者はエリアマネージャーを兼務しているの、法人との連携が取りやすく、第2ユニットの管理者は「チームワークが良い施設」だと語ってくれた。勤続年数が高い職員が多く、経験値の高さが介護に活かされている。できるだけ得意なことをしてもらうことで、スキルアップにも繋がり、苦手なことは、職員間でフォローし合うことが当たり前環境としていて、今回の評価では、「運営推進会議の在り方」「市町村との連携」「職員間の意思疎通」などの課題を見つけることができ、両ユニットの管理者はそれを真摯に受け止めることで、まだまだ発展の予知や可能性が秘められている我が家のような施設であった。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	個々に合わせた自立支援が行われる様その方、ご家族、スタッフ同士コミュニケーションを大切に、向上会議カンファレンスを行い信頼関係を深めスキルアップに努める。	玄関と職員ロッカー前に理念を掲示し、休憩室にGH内の目標を掲示している。目に見えるところに掲示することで、周知している。思いやりや笑顔で溢れ、落ち着けるGHを目指している。年1回職員をアンケートを実施し、目標を立てて、達成できるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染予防に留意しながら、近所への散歩・ドライブに出る。閉鎖的にならない様地域との繋がりを感じる機会を積極的に持っている。	町内会に加入していて、散歩時に出会った人と挨拶を交わす関係ができています。地域の方が、野菜や筍を持って来てくれたことがあり、年度末には、管理者が地域の交流を図るために挨拶に出向いている。コロナ前には、小学校の学習発表会やお祭りに参加していた。	コロナ禍でも地域交流が疎遠にならないように工夫をしてみたいかがでしょうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員自身が日々の仕事を通して学んだことを外部へ発信できるよう、お互いの知識を共有できるよう勉強会の場を持った。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染予防から外部講師は困難だった。ズーム・リモートを使用した。施設内で話し合い向上に努めた。	現在は書面で開催し、郵送している。直近の会議では、施設内で起こった事例を基に職員で話し合いを行い、学習会の開催もできた。年1回、家族アンケートにて意見を聴取している。写真入りの手紙が好評で、感謝の言葉を聞くことができた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議実施の案内は地域包括支援センターへ連絡している。外部より講師を招くことは困難。	窓口は両ユニットの管理者となっている。生活保護を受けている利用者の対応について質問があり、役場を訪問したが不在だったので、後日電話にて連絡をした。岡山市の事業者指導課より、コロナ関連の情報や研修案内のメールが届き、わからないことがあれば本社から問い合わせをしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束防止委員会を中心に定期的に勉強会を行うことで職員は正しい知識を得ることができた。必要であればご家族・職員で協議し必要最小限になるよう意識しケアする。	身体拘束、虐待防止委員会を向上会議や運営推進会議の際に合わせて年6回行っている。施設内の事例やネットからの資料を活用して、常に新しい知識を取り入れている。外部講師による、若年性アルツハイマーの講演も行った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を中心に定期的な勉強会を行い無自覚に行っていないかも含めお互いセルフチェックし話し合える場を作っていく。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居時などに不安、疑問点を確認し理解・納得を図っている。またその都度あれば説明し対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時などに不安、疑問点を確認し理解・納得を図っている。またその都度あれば説明し対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見・要望をお聞きし職員に共有しご要望に添えられるように改善できるように努めている。	家族との面会は、カーテン越しで短時間・予約制で玄関先で行っている。利用者の様子を電話で伝える際に、意見を聞くようにしている。SNSを活用し、家族に利用者の写真に言葉を添えて送ることもあり、感謝の言葉や様子がわかるとの声が届いた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員同士で、話しあったり会議で決めて反映している。	年1回アンケートを実施し、何かあれば、随時両ユニットの管理者が話を聞く場を設けている。管理者同士の連携も取れている。管理者がわからない場合には、本部に問い合わせるようにしている。月1回の開催される会議は、職員の意見を聞く貴重な場となっている。	施設内の目的を再確認し、職員間で注意しあえる関係づくりに努めてみてはいかがでしょうか。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が意見や要望に耳を傾けてくれ、改善できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で、研修する機会が減ったが施設内での研修・技術向上には努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設からの異動・新しい職員から意見を聞き良いところを取り入れている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様の言葉、表情等に気づき早い対応を行う。変化がみられる際は情報を共有し接する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご様子を伝え、ご家族様のご要望に応えられるように努め、信頼関係を築けるようにする。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様の状態を把握し必要な援助を歯判断しプランを作成。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として接し、うれしいこと不安なことを共感しながら過ごせるように努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様通信や、日々のご様子を連絡し写真等を送り、現在のご様子を伝え信頼関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で、面会が難しいが、電話やオンライン面会等で支援に努めた。	随時電話やオンライン面会を受け付けている。面会は玄関でカーテン越しで、予約制の短時間で実施している。同法人内の別施設に家族がいて、定期的に会いに行く方もいる。利用者同士、一緒にテレビを観て過ごしたり、職員が帰る際に「もう帰るん？」と言われ、手を振って挨拶を交わす関係もできている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないように声をかけたり、入居者様同士が会話ができるように職員が間に入り対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	信頼関係を大切にいつでも相談に乗れたり、気楽に連絡を頂けるようにご家族の都合に合わせて連絡手段も変え幅広く提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアを通じ個々の思いを知る様努めている。ケース会議をし言葉にできない方の真のニーズを把握しパーソンセンタードケアを大切にしている。	入居時に生活歴を確認したり、日々の会話の中で把握したりしている。写真を見ながら、昔話に花を咲かせることもある。散歩やドライブ時に多くの意見が聞け、介護記録や申し送りノート、向上会議のモニタリングにて、情報共有をしている。お風呂や居室での1対1の場面で意見が出やすく、ありがとうと感謝の言葉を聞くことができた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの暮らしぶり生活歴をご本人、ご家族アセスメント時に聞き、また入居後ご本人との会話から得た情報を共有する事で把握に務めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の流れは大きく変わらないが、個々のペースを大切に。小さな変化も見逃さず記録に残す事で情報共有が出来る。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各ユニット会議にて毎月職員間で意見交換し変化していく本人の状態を理解し、適切にケアが行える様努めている。	生活援助計画にて、課題や短期目標を設定している。向上会議の際にモニタリングをして、変更箇所を赤字にすることで見やすい工夫をして、プランに反映させている。日常生活支援アセスメント表に細かく記載することで、利用者に寄り添ったプランとなっている。介護計画は、1ヶ月、半年(状態に応じて1年の場合もある)で見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の会話を含め、出来事を個々に記録し共有することで細やかなケアを心がけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族ニーズの変化に柔軟に対応できるようしっかりと対応できるよう見極めサービス提供に努める。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染予防対策もあり、共同は困難であった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科・予防歯科の定期的な往診に加え、状態に合わせた治療を行っている。ご本人、ご家族の希望に添えることができるよう常に、Dr・ナース・職員は連携を取っている。	かかりつけ医は、協力医に全員が転医されている。往診は週2回で24時間365日対応して頂ける。利用者とドクターとの関係は良好で、何でも話せる関係となっている。施設内に看護師がいるので連携が取りやすい。他科受診は、基本家族が連れて行く。週1回の訪問歯科があり、口腔ケアをして頂ける。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異変時は看護師に連絡を取って指示を受ける。24時間対応看護師がおり、小さな変化でも報告し早期に対応ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	情報提供協を入退院時に交わし、入院時の治療につなげ退院時のケアに繋げている。退院後の受け入れについて医療機関としっかり話し合うことで信頼関係を築いていくようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族に対しグリーフケアも大切にし、早い段階から誠意をもって説明し、施設で出来る事を伝える。ご家族の希望に添えるように努力した。現場では、看護師を中心に最後に向けより良いケアができるよう努める。	看取りは実施していて、数名の方を施設で看取った。入居時に「GHでの看取り介護サービス対応指針」にて説明し、同意を得ている。家族やドクターの意見を参考にし、看取りの場所を決めている。デスカンファレスの際には、職員の意見を聴取し、看護師の意見も仰ぎ、家族の気持ちに寄り添って、様子や質問に対して真摯に対応するようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時には全職員が同じ対応ができるよう、マニュアル作成した。全職員が冷静に対応できるよう必要な手順で行える様になっている。定期的に説明・確認もするようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	感染対策にて困難ではあるが、年二回の訓練実施することで、慌てずに対応ができた。地域の方との連携も出来るよう手配している。	年2回、昼夜想定で火災・水害・地震訓練を行い、通報・消火訓練も実施した。避難場所は、近隣の小学校か同法人の別施設に避難するようにしている。車イス対応や安全面について考え、どの方から避難するかを話し合った。備蓄はコンテナに、水、乾パンを2～3日分保管していて、期限間近のものは食している。自家発電もしていて、停電に備えている。	災害対策について今一度見直してみてもいいかがでしょうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症の進行や身体機能の低下によってできないことが増えてくる事に配慮を常に意識し、会話・ケアにおいて尊厳を大切にしている。	リビングやお風呂に設置している棚には、プライバシーに配慮して部屋番号で記入している。申し送り時にも、部屋番号で呼ぶように工夫している。鏡を使用していない際には、ビニールをかけることで、利用者が不穏にならないように配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思を自己表示することが困難な方の小さなサインを見逃さず受け止め理解できるよう寄り添いご自分の意思を当せる用に関りを工夫する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の業務的な流れで当てはめるのではなく、個々それぞれに合わせ柔軟に対応できるように職員同士コミュニケーションをとり関りを持つ。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	必要なものを一緒に買いに出たり、毎日の整容の手伝いを行う。2か月に一度の散髪の前に、髪型の希望を聞くなどし、外見に関心を持っていただく。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえなど一緒に行ったり楽しみを持っていただくよう会話も工夫する。好きな物を聞きメニューに取り入れたりする。楽しみを持てるような雰囲気作りも大切にしている。	朝はケイタリングで、昼夜は食材が届き、施設で調理している。お米は施設で炊いている。30分で食べられる量に調整している。ホットケーキ、おはぎ、ぜんざいのおやつを作った。誕生日には、利用者の好きな物やケーキでお祝いしている。朝食は、起床時間に合わせて、好きな時間に食べることができている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは食材業者に一任しておりその中で、食べやすいように工夫している。個々に合わせた食事形体にて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	肺炎の元になる為口腔内をキレイにする必要性を考え、口腔ケアも個々に合わせ工夫している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の排泄チェック表から、個々のパターンをしりその方に合った誘導を行う事で、自立・尊厳を大切にしている。カンファレンスを行い変化に迅速に対応している。	男性便器もあり、立位で用を足している方もいる。トイレは毎日清掃することで清潔さが保たれている。利用者の排便のタイミングが変わった際には、カンファレンスを開き、利用者へ寄り添うようにしている。紙パンツで入居された方が、最終的に布パンツに戻った事例もある。日中は布パンツで過ごしている方も数名おられる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールが認知症にも影響が大きいことを理解し、排便コントロールを行う。牛乳・ヨーグルトなどで対応する。看護師・医師との連携で服薬も必要である。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望がある方に関しては、可能な限り希望に添えるように提供している。訴えがない方にも、週3回または、必要に応じ入浴していただくようにしている。	週3回の入浴で、浴槽に浸かる方が半数以上。浸からない方へは、シャワー浴に足浴をしている。気分を変えるために入浴剤を使用することもある。拒否される方には、立ち上がったタイミングで言葉かけをして、無理強いほしないようにしている。温度の調整も利用者に合わせて行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	二時間毎、三時間毎の巡回を行う。必要な方にはセンサー設置している。ゆっくり休んで頂けるよう、日中の過ごし方も工夫する。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬提供前には必ず職員同士でのダブルチェックを行っている。飲み残しが無いよう近位見守りを行っている。提供の仕方も個々で工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴に沿って得意なこと、好きなことをして頂けるよう工夫している。役割をしていただくことで満足感・自己肯定感を得ていただき精神の安定につなげていく。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩が好きな方・歩けない方、それぞれに合わせて、周辺の散歩・ドライブを行っている。テラスでの日光浴等喜ばれる機会を作れるよう努めている。季節を肌や目で感じていただく。	気候の良い日には、毎日散歩をして近所の方と挨拶を交わす関係ができています。玄関先やテラスに出て、日向ぼっこをしている。コロナ対策をした上で、ドライブがてら、関谷学校、長船、牛窓、西大寺などにも行った。30分間の体操が日課となり健康維持に努めている。同法人内の別施設に家族の方がいて、会いに行くこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍で出かけることは難しいが欲しい物、必要な物を買う。財布を持つことで安心される方は持っていていただくようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご要望があれば、電話や手紙を書いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は入居者様の作品を飾れるようにしている、また日付がわかるようにカレンダーや年号を書いた物を設置している。	ソファに座ってTVを観たり、職員と一緒に会話を楽しんだり、洗濯物量みをして過ごしている。ゆっくりと朝食を食べながら、評価員と地元トークに花を咲かせた。大きなスクリーンを使って利用者の写真の上映会を楽しむこともある。利用者の特性の考慮して、極力壁に張り紙をしていない。現在は昭和98年で、利用者同士の会話のきっかけとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士のトラブルがないように常に心がけている、自由に居室・ホールで過ごして頂けるようにする。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使用していた家具、ご家族様の写真・服等を目に届くところへ飾り、一人一人にあった居室作りしている。	利用者の落ち着いた時間に合わせて毎日清掃をしている。家族から大きな写真がプレゼントされ、大切に飾られていた。手先が器用な方は、折り紙で千羽鶴の作品を作っている。TVを見たり、新聞を読んだりして過ごしている。毎日仏壇に手を合わせて、家族を忍んでる方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自分で出来ることは大切に自立支援を一番に考えわかりやすい声掛けをし、ご自分でできる事をして頂く、自立した環境作りをしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390100257		
法人名	(株)桜梅桃里		
事業所名	グループホーム和楽の家 上道		
所在地	岡山県岡山市東区才崎260		
自己評価作成日	令和 5 年 3 月 18 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①その方に合った役割やレクを実施出来る様な声かけをし、していただく事で、やりがいや自信を持って日々生活して頂く。また、その方に合った自立支援を大切にしている。
②ご家族に報告連絡相談をまめに行い、施設に足を運んでいただける声かけを行っている。ご本人の生活史やご本人・ご家族の要望・思いをお聞きし、情報を職員全員で共有し日々の個別ケアにあたっている。写真も交えた回想法を大切にしている。
③その方の生活のリズムを把握し、排泄リズムを知り、時間毎に声かけし、トイレ誘導する。みそ汁を毎食食べて頂いたり、水分を多くとっていただいたり、朝一番に冷たい飲み物を飲んで頂いたり、腹部マッサージをトイレに座っていただいたときにこちらでさせていただいたりと内科主治医・看護師の指示の元排便リズムをつくるようにしている。即効性はないが、日々気を付け習慣づけている。
④ドライブ、日光浴、散歩など社会支援を出来るだけ行う。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3390100257-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 5 年 3 月 25 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者には、我が家と同じように過ごして頂きたいとの思いから、起床や朝食は自由に自分のタイミングに合わせている。この施設に来てよかったと思って頂けるように日々のケアに臨んでいる。両ユニットの管理者は「介護施設は業務優先じゃなく、一人ひとりと笑顔接することを大切に場所だ」と考えていて、職員には「その人らしさ」、利用者には「歩み寄り」姿勢を心掛けている。とくに、第1ユニットの管理者はエリアマネージャーを兼務しているので、法人との連携が取りやすく、第2ユニットの管理者は「チームワークが良い施設」だと語ってくれた。勤続年数が長い職員が多く、経験値の高さが介護に活かされている。できるだけ得意なことをしてもらうことで、スキルアップにも繋がり、苦手なことは、職員間でフォローし合うことが当たり前の環境としていて、今回の評価では、「運営推進会議の在り方」「市町村との連携」「職員間の意思疎通」などの課題を見つけることができ、両ユニットの管理者はそれを真摯に受け止めることで、まだまだ発展の予知や可能性が秘められている我が家のような施設であった。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	個々に合わせた自立支援が行われる様その方、ご家族、スタッフ同士コミュニケーションを大切に、向上会議カンファレンスを行い信頼関係を深めスキルアップに努める。	玄関と職員ロッカー前に理念を掲示し、休憩室にGH内の目標を掲示している。目に見えるところに掲示することで、周知している。思いやりや笑顔で溢れ、落ち着けるGHを目指している。年1回職員をアンケートを実施し、目標を立てて、達成できるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染予防に留意しながら、近所への散歩・ドライブに出る。閉鎖的にならない様地域との繋がりを感じる機会を積極的に持っている。	町内会に加入していて、散歩時に出会った人と挨拶を交わす関係ができています。地域の方が、野菜や筍を持って来てくれたことがあり、年度末には、管理者が地域の交流を図るために挨拶に出向いている。コロナ前には、小学校の学習発表会やお祭りに参加していた。	コロナ禍でも地域交流が疎遠にならないように工夫をしてみたいかがでしょうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員自身が日々の仕事を通して学んだことを外部へ発信できるよう、お互いの知識を共有できるよう勉強会の場を持った。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染予防から外部講師は困難だった。ズーム・リモートを使用した。施設内で話し合い向上に努めた。	現在は書面で開催し、郵送している。直近の会議では、施設内で起こった事例を基に職員で話し合いを行い、学習会の開催もできた。年1回、家族アンケートにて意見を聴取している。写真入りの手紙が好評で、感謝の言葉を聞くことができた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議実施の案内は地域包括支援センターへ連絡している。外部より講師を招くことは困難。	窓口は両ユニットの管理者となっている。生活保護を受けている利用者の対応について質問があり、役場を訪問したが不在だったので、後日電話にて連絡をした。岡山市の事業者指導課より、コロナ関連の情報や研修案内のメールが届き、わからないことがあれば本社から問い合わせをしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束防止委員会を中心に定期的に勉強会を行うことで職員は正しい知識を得ることができた。必要であればご家族・職員で協議し必要最小限になるよう意識しケアする。	身体拘束、虐待防止委員会を向上会議や運営推進会議の際に合わせて年6回行っている。施設内の事例やネットからの資料を活用して、常に新しい知識を取り入れている。外部講師による、若年性アルツハイマーの講演も行った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を中心に定期的な勉強会を行い無自覚に行っていないかも含めお互いセルフチェックし話し合える場を作っていく。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居時などに不安、疑問点を確認し理解・納得を図っている。またその都度あれば説明し対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時などに不安、疑問点を確認し理解・納得を図っている。またその都度あれば説明し対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見・要望をお聞きし職員に共有しご要望に添えられるように改善できるように努めている。	家族との面会は、カーテン越しで短時間・予約制で玄関先で行っている。利用者の様子を電話で伝える際に、意見を聞くようにしている。SNSを活用し、家族に利用者の写真に言葉を添えて送ることもあり、感謝の言葉や様子がわかるとの声が届いた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員同士で、話しあったり会議で決めて反映している。	年1回アンケートを実施し、何かあれば、随時両ユニットの管理者が話を聞く場を設けている。管理者同士の連携も取れている。管理者がわからない場合には、本部に問い合わせるようにしている。月1回の開催される会議は、職員の意見を聞く貴重な場となっている。	施設内の目的を再確認し、職員間で注意しあえる関係づくりに努めてみてはいかがでしょうか。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が意見や要望に耳を傾けてくれ、改善できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で、研修する機会が減ったが施設内での研修・技術向上には努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設からの異動・新しい職員から意見を聞き良いところを取り入れている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様の言葉、表情等に気づき早い対応を行う。変化がみられる際は情報を共有し接する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご様子を伝え、ご家族様のご要望に応えられるように努め、信頼関係を築けるようにする。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様の状態を把握し必要な援助を歯判断しプランを作成。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として接し、うれしいこと不安なことを共感しながら過ごせるように努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様通信や、日々のご様子を連絡し写真等を送り、現在のご様子を伝え信頼関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で、面会が難しいが、電話やオンライン面会等で支援に努めた。	随時電話やオンライン面会を受け付けている。面会は玄関でカーテン越しで、予約制の短時間で実施している。同法人内の別施設に家族がいて、定期的に会いに行く方もいる。利用者同士、一緒にテレビを観て過ごしたり、職員が帰る際に「もう帰るん？」と言われ、手を振って挨拶を交わす関係もできている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないように声をかけたり、入居者様同士が会話ができるように職員が間に入り対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	信頼関係を大切にいつでも相談に乗れたり、気楽に連絡を頂けるようにご家族の都合に合わせて連絡手段も変え幅広く提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアを通じ個々の思いを知る様努めている。ケース会議をし言葉にできない方の真のニーズを把握しパーソンセンタードケアを大切にしている。	入居時に生活歴を確認したり、日々の会話の中で把握したりしている。写真を見ながら、昔話に花を咲かせることもある。散歩やドライブ時に多くの意見が聞け、介護記録や申し送りノート、向上会議のモニタリングにて、情報共有をしている。お風呂や居室での1対1の場面で意見が出やすく、ありがとうと感謝の言葉を聞くことができた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの暮らしぶり生活歴をご本人、ご家族アセスメント時に聞き、また入居後ご本人との会話から得た情報を共有する事で把握に務めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の流れは大きく変わらないが、個々のペースを大切に。小さな変化も見逃さず記録に残す事で情報共有が出来る。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各ユニット会議にて毎月職員間で意見交換し変化していく本人の状態を理解し、適切にケアが行える様努めている。	生活援助計画にて、課題や短期目標を設定している。向上会議の際にモニタリングをして、変更箇所を赤字にすることで見やすい工夫をして、プランに反映させている。日常生活支援アセスメント表に細かく記載することで、利用者に寄り添ったプランとなっている。介護計画は、1ヶ月、半年(状態に応じて1年の場合もある)で見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の会話を含め、出来事を個々に記録し共有することで細やかなケアを心がけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族ニーズの変化に柔軟に対応できるようしっかりと対応できるよう見極めサービス提供に努める。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染予防対策もあり、共同は困難であった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科・予防歯科の定期的な往診に加え、状態に合わせた治療を行っている。ご本人、ご家族の希望に添えることができるよう常に、Dr・ナース・職員は連携を取っている。	かかりつけ医は、協力医に全員が転医されている。往診は週2回で24時間365日対応して頂ける。利用者とドクターとの関係は良好で、何でも話せる関係となっている。施設内に看護師がいるので連携が取りやすい。他科受診は、基本家族が連れて行く。週1回の訪問歯科があり、口腔ケアをして頂ける。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異変時は看護師に連絡を取って指示を受ける。24時間対応看護師がおり、小さな変化でも報告し早期に対応ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	情報提供協を入退院時に交わし、入院時の治療につなげ退院時のケアに繋げている。退院後の受け入れについて医療機関としっかり話し合うことで信頼関係を築いていくようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族に対しグリーンケアも大切にし、早い段階から誠意をもって説明し、施設で出来る事を伝える。ご家族の希望に添えるように努力した。現場では、看護師を中心に最後に向けより良いケアができるよう努める。	看取りは実施していて、数名の方を施設で看取った。入居時に「GHでの看取り介護サービス対応指針」にて説明し、同意を得ている。家族やドクターの意見を参考にし、看取りの場所を決めている。デスカンファレンスの際には、職員の意見を聴取し、看護師の意見も仰ぎ、家族の気持ちに寄り添って、様子や質問に対して真摯に対応するようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時には全職員が同じ対応ができるよう、マニュアル作成した。全職員が冷静に対応できるよう必要な手順で行える様になっている。定期的に説明・確認もするようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	感染対策にて困難ではあるが、年二回の訓練実施することで、慌てずに対応ができた。地域の方との連携も出来るよう手配している。	年2回、昼夜想定で火災・水害・地震訓練を行い、通報・消火訓練も実施した。避難場所は、近隣の小学校か同法人の別施設に避難するようにしている。車イス対応や安全面について考え、どの方から避難するかを話し合った。備蓄はコンテナに、水、乾パンを2～3日分保管していて、期限間近のものは食している。自家発電もしていて、停電に備えている。	災害対策について今一度見直してみてもいいかがでしょうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症の進行や身体機能の低下によってできないことが増えてくる事に配慮を常に意識し、会話・ケアにおいて尊厳を大切にしている。	リビングやお風呂に設置している棚には、プライバシーに配慮して部屋番号で記入している。申し送り時にも、部屋番号で呼ぶように工夫している。鏡を使用していない際には、ビニールをかけることで、利用者が不穏にならないように配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思を自己表示することが困難な方の小さなサインを見逃さず受け止め理解できるよう寄り添いご自分の意思を当せる用に関りを工夫する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の業務的な流れで当てはめるのではなく、個々それぞれに合わせ柔軟に対応できるように職員同士コミュニケーションをとり関りを持つ。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	必要なものを一緒に買いに出たり、毎日の整容の手伝いを行う。2か月に一度の散髪の前に、髪型の希望を聞くなどし、外見に関心を持っていただく。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえなど一緒に行ったり楽しみを持っていただくよう会話も工夫する。好きな物を聞きメニューに取り入れたりする。楽しみを持てるような雰囲気作りも大切にしている。	朝はケイタリングで、昼夜は食材が届き、施設で調理している。お米は施設で炊いている。30分で食べられる量に調整している。ホットケーキ、おはぎ、ぜんざいのおやつを作った。誕生日には、利用者の好きな物やケーキでお祝いしている。朝食は、起床時間に合わせて、好きな時間に食べることができている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは食材業者に一任しておりその中で、食べやすいように工夫している。個々に合わせた食事形体にて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	肺炎の元になる為口腔内をキレイにする必要性を考え、口腔ケアも個々に合わせ工夫している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の排泄チェック表から、個々のパターンをしりその方に合った誘導を行う事で、自立・尊厳を大切にしている。カンファレンスを行い変化に迅速に対応している。	男性便器もあり、立位で用を足している方もいる。トイレは毎日清掃することで清潔さが保たれている。利用者の排便のタイミングが変わった際には、カンファレンスを開き、利用者へ寄り添うようにしている。紙パンツで入居された方が、最終的に布パンツに戻った事例もある。日中は布パンツで過ごしている方も数名おられる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールが認知症にも影響が大きいことを理解し、排便コントロールを行う。牛乳・ヨーグルトなどで対応する。看護師・医師との連携で服薬も必要である。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望がある方に関しては、可能な限り希望に添えるように提供している。訴えがない方にも、週3回または、必要に応じ入浴していただくようにしている。	週3回の入浴で、浴槽に浸かる方が半数以上。浸からない方へは、シャワー浴に足浴をしている。気分を変えるために入浴剤を使用することもある。拒否される方には、立ち上がったタイミングで言葉かけをして、無理強いほしないようにしている。温度の調整も利用者に合わせて行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	二時間毎、三時間毎の巡回を行う。必要な方にはセンサー設置している。ゆっくり休んで頂けるよう、日中の過ごし方も工夫する。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬提供前には必ず職員同士でのダブルチェックを行っている。飲み残しが無いよう近位見守りを行っている。提供の仕方も個々で工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴に沿って得意なこと、好きなことをして頂けるよう工夫している。役割をしていただくことで満足感・自己肯定感を得ていただき精神の安定につなげていく。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩が好きな方・歩けない方、それぞれに合わせて、周辺の散歩・ドライブを行っている。テラスでの日光浴等喜ばれる機会を作れるよう努めている。季節を肌や目で感じていただく。	気候の良い日には、毎日散歩をして近所の方と挨拶を交わす関係ができています。玄関先やテラスに出て、日向ぼっこをしている。コロナ対策をした上で、ドライブがてら、関谷学校、長船、牛窓、西大寺などにも行った。30分間の体操が日課となり健康維持に努めている。同法人内の別施設に家族の方がいて、会いに行くこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍で出かけることは難しいが欲しい物、必要な物を買う。財布を持つことで安心される方は持っただけようになっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご要望があれば、電話や手紙を書いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は入居者様の作品を飾れるようにしている、また日付がわかるようにカレンダーや年号を書いた物を設置している。	ソファに座ってTVを観たり、職員と一緒に会話を楽しんだり、洗濯物量みをして過ごしている。ゆっくりと朝食を食べながら、評価員と地元トークに花を咲かせた。大きなスクリーンを使って利用者の写真の上映会を楽しむこともある。利用者の特性の考慮して、極力壁に張り紙をしていない。現在は昭和98年で、利用者同士の会話のきっかけとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士のトラブルがないように常に心がけている、自由に居室・ホールで過ごして頂けるようにする。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使用していた家具、ご家族様の写真・服等を目に届くところへ飾り、一人一人にあった居室作りしている。	利用者の落ち着いた時間に合わせて毎日清掃をしている。家族から大きな写真がプレゼントされ、大切に飾られていた。手先が器用な方は、折り紙で千羽鶴の作品を作っている。TVを見たり、新聞を読んだりして過ごしている。毎日仏壇に手を合わせて、家族を忍んでる方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自分で出来ることは大切に自立支援を一番に考えわかりやすい声掛けをし、ご自分でできる事をして頂く、自立した環境作りをしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない